

## 令和 5 年（2023 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：秋田県大潟村

協定締結日：令和 2 年（2020 年）3 月 31 日

活動状況：継続中

連携先窓口：秋田県・大潟村・総務企画課企画財政班 担当者

活動資金：補助金

担当教員（所属）：井形雅代（アグリビジネス学科）

活動体制（単位）：個人

関連教員（所属）：入江満美（国際農業開発学科）、石川森夫（醸造科学科）

活動目的：

地域連携のもとで、大潟村の産業、環境保全並びに人材の育成に向け、産業振興、地域づくり等の分野において相互に協力する。

活動内容・成果：

アグリビジネス学科（学生は国際バイオビジネス学科所属）のカリキュラムの一つであるバイオビジネス実地研修（2 年生担当、必修科目、寺野梨香先生担当）では、8 月 3 日～12 日の 12 日間、5 名の学生が大潟村にて研修を行った。受入先は芹田省一氏、今雅人氏、菅原史夫氏、高橋圭太氏、吉原忍氏、部門は水稻、大豆、カボチャ等で、地元の方々と交流しつつ、熱心に作業を行った。

入江満美先生（国際農業開発学科）は、現地の農業副産物である粃殻を用い燻炭化し、新触媒で製造したアンモニアを想定してアンモニアを保持させたペレット肥料作成の製法をほぼ確立する成果を上げることができた。農家が使用する際のハンドリング改善のためにペレット化を試行した、添加する粘結剤はベントナイト・廃糖蜜・鶏糞を用い、ペレット化を行い、できたペレットの硬さから、ペレット化ができているかを判断し、粃殻燻炭と粘結剤、アンモニアガスの最適な配合割合を求めた。

課題・改善点：

この先も、各教員の連携先と協議しながら協力して、高い研究・教育効果を目指していく。また、アグリビジネス学科の研修をとおして、規格外品を利用した加工品の開発に協力したいとの要望があったため、このようなことが可能かどうか、大潟村と協議を行う予定である。さらに、2024 年度は大潟村創立 60 周年に当たるため、収穫祭等の機会を利用し、学内でも認知度の拡大や特産物の販売促進を図る予定である。